

# 研修医通信 Vol.81 2017年8月号

三重大学医学部附属病院 伊野綾香

指導医 小出泰平 Dr

海に見える町。紀南に着いた日、1番最初に受けた印象を表すとこの言葉になります。私の所属している三重大学病院も海に隣接してはいるのですが、紀南はさらに海が身近で、阿田和の家々の屋根の上に広がる青い水平線、これを4Fの窓から見るのが私の毎日の密かな楽しみでした。

この1ヶ月は本当に密度の濃い充実した研修をさせていただきました。これまで私は県内の病院を比較的多く研修で回って来た方だと思うのですが、各病院にいる期間が短かったこともあり、救急外来の一部くらいでしか自身で検査・治療方針を判断する機会がありませんでした。今回外科では手技を丁寧に教えていただいたのみならず、病棟管理についてや、患者さんの **back ground** に関する事など幅広い考え方を学び、実際に業務として活かすことができました。上司として、そして時には兄のように父のように(?) 導きご指導くださった小出先生、堯天先生には本当に感謝しています。また他科の先生方には気軽に相談に乗っていただいたりご飯に連れて行っていただき、コメディカルの方々には多々ご迷惑をおかけしつつ (すみません)、それぞれにたくさんのお話をいただきました。ありがとうございました。

1ヶ月間お世話になりました。また今度は内科で来れるといいな…

追伸：お米は確かに好きですが、炭水化物だけじゃなくて野菜やタンパク質も好きですよ？笑

鈴鹿中央総合病院 白井美希

指導医 野村達磨 Dr

鈴鹿中央総合病院の白井です。

紀南病院での1日はあっという間に過ぎ去り気がつけば今、最終週を迎えています。

紀南病院に来る前に聞いていた噂通りの院内の高齢者の多さ・宿舎の虫の多さに最初の頃は驚いていましたが、後半にもなると70代の患者さんを「若いなあ」と感じたり、蜘蛛が出てもキンチョールを振りかけることなく暖かい気持ちで共存できる気持ちが自然と身につけていました。高齢患者が多いということで、基礎疾患を複数抱えた患者や入退院を繰り返している方が非常に多く、幅広い内科疾患をこの1か月で経験できたと思います。一つ悔いの残ることは、患者さんが住む地域を十分に知ることができなかったことです。たとえば、患者さんとの会話の中で「自分はイドに住んでいてで息子がクルスに住んでいる。」などの話では、その地名がどこなのか、どんなところなのかわからなかったり、また特有の方言で患者さんの伝えたいことが理解できなかったりできず困ったことが何度もありました。知らない土地で患者さんやご家族とコミュニケーションをとることの難しさや、地域を知ることの重要性を実感するとともに、十分に知ることの怠ったことが後悔となりました。知識・技術ともに未熟で後手後手になりがちで、間違ったオーダーをしてしまっている、こっそりアフターケアしてくださっていた上級医の野村先生をはじめ多くの先生や病棟や当直でお世話になった看護師さん、検査室の方、事務の清水さんや西さん、関わってくださったすべての紀南病院の方、心からありがとうございました！



三重大学医学部附属病院 水谷有希

指導医 森川昇玲 Dr

こんにちは、みかんと羊を眺めてたら盛大に日焼けして実はスクラブのズボンの下はけっこう痛い研修医の水谷です。2ヶ月目、もうちょい色々できるかな…と手を出してみても「もっと早くやってみればよかった…！」とか「これは…餅屋さんが医師以外にちゃんといらっしやる…」とか。今まで何となく知ったつもり、学生の頃に先生がやっていたのを見ただけ、をきちんと内科診療するために自分で改めて順序を確認して動かしていくのは、手技の巧拙や医師⇄患者コミュニケーションの問題に留まらず医師としてどう在るべきか、一挙手一投足を日々問われる思いでした。研修センターの計らいもあり、紀南病院内のみならず、孤島の診療所、陸の孤島になりそうな山の診療所、保健所、消防署・・・各所で医学の多様な側面を再確認しながら、医療人として涵養して頂けたことは、本当に幸せでした。

わずか2ヶ月の間でしたが、阿田和のみかんのよう、素晴らしい環境と職員の方々の努力の中で育てて頂いたことで、この先出会う患者さんと小さな実を年中結んでいけるよう、今後とも前進していきたいと思っております。ありがとうございました。

三重大学医学部附属病院 杉岡直弥

指導医 西村誠 Dr

8月から紀南病院で研修させていただいている杉岡です。三重大学に入学してからは、地元である紀南に帰ってくるのは年に数回だったので、今回は久しぶりに地元でゆっくり過ごさせていただいています。8月は地域医療研修で整形外科研修という形で研修をさせていただきました。地域研修では、病院内での医療だけでなく消防署実習やミニタウンミーティングなどへの参加もさせていただきました。

整形外科の研修では毎朝入院患者さんの回診を行っていますが、その中で術後の創の状態の確認、包帯やガーゼの貼り替え、抜糸などもさせていただきました。その他、手術や外来での診察なども経験させていただき、大変貴重な研修となりました。手技などではまだ経験していなかったものや自分一人では満足に行えないものもたくさんありご迷惑をおかけしましたが、やさしく丁寧に指導していただきありがとうございました。今後も紀南病院では来年の2月まで研修させていただく予定です。ご迷惑をおかけすると思っておりますがよろしくお祈りいたします。

東京大学医学部附属病院 瀬戸口尚登

指導医 増田考祐 Dr

1カ月お世話になりました、東京大学医学部附属病院の瀬戸口尚登です。紀南病院での1カ月は、これまでの医師初期研修の中でも一番濃い1カ月になりました。紀南病院での1カ月で一番嬉しかった事は、やはり患者さんが良くなる姿を見たり聞いたりできた事だと思います。患者さんが良くなる姿を見れる事は、私たち医療者にとって最大の願いです。一方で、辛さと闘っている患者さんが大勢いるのも事実です。いかに患者さんの辛さを少なくするお手伝いができるか、これからも向き合う必要があります。この1カ月間の間に関わらせて頂いた患者さんにお礼申し上げます。

話は変わりますが、1カ月の間に、答志島、紀和、太地など様々なところに足を運びました。三重県で過ごすのは、旅行で志摩に来た事があった以外初めてでしたが、どこに行っても充実した日々を送る事ができました。ついつい眺めてしまう美しい海、深い山々に囲まれ、三重県は本当に素敵な場所だと思います。個人的に一番気に入ったのは、紀和の祭りでしょうか。山と川に囲まれた空間でみる祭りは、本当に幻想的でした。また機会を見て三重県を再訪したいと思います。1カ月間本当にありがとうございました。

